

国立国会図書館



世界図書館紀行 ポストン

憲政資料の新規公開資料から

2013.11

No. 632

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

CONTENTS

02 相馬大作白沢一件書類 津軽藩主襲撃未遂事件の真相

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 世界図書館紀行 ポストン

13 憲政資料室の新規公開資料から

12 館内スコープ

複写カウンターにて

24 本屋にない本

○「うまいぞ！シカ肉 捕獲、解体、調理、販売まで」

25 NDL NEWS

○法規の制定

○おもな人事

○中国国家図書館との第32回業務交流

27 お知らせ

○年末年始のご利用について

○東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「未来をつくる地域の記憶」

○本の万華鏡（第14回）「アフリカの日本、日本のアフリカ」

○新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

相馬大作白沢一件書類 津軽藩主襲撃未遂事件の真相

川本 勉

文政4(1821)年4月23日、秋田藩白沢村の岩抜山中腹で、南部藩の浪人、下斗米秀之進しもとまいひでのしん まさざね(諱は将真)(写真1)と関良助、下斗米惣藏、一条小太郎ら門弟たちは、主家の恨みを晴らすため、江戸から帰国途上の津軽藩主、津軽寧親襲撃を企てていた。ところが仲間の刀鍛冶大吉が裏切り、その弟子の嘉兵衛が番所へ密告すると、急遽、津軽家用人の笠原八郎兵衛は、秋田藩に帰路変更を願い出た。家老の津軽頼母は、強行突破を主張する寧親を説得し、海防視察を理由に帰国ルートを変えさせた。4月29日、寧親は無事弘前に帰還した。大吉、嘉兵衛らは後に、津軽藩士に召し抱えられた。襲撃に失敗した秀之進は江戸に逃れ相馬大作と改名し、平山流の兵術道場を開いていたが、笠原八郎兵衛の画策により、関良助とともに幕吏に捕えられる。2人は北町奉行榊原主計頭かづえのかみの取り調べを受け、文政5年8月29日、小塚原の刑場で獄門に処せられた。以上が世に知られる相馬大作事件(白沢事件)の概要である。背景には、戦国時代から続く南部家と津軽家の確執や家格、官位争いがあった。

『相馬大作白沢一件書類』は、嘉兵衛の密告、秀之進らの襲撃の状況、北町奉行の取り調べの様子など事件の真相を津軽藩の側から記したものである。第1冊巻頭には、この書類は、事件を担当した津軽藩家老笠原八郎兵衛の秘記で、親族はもとより他見を禁ぜられてきたが、廃藩後、笠原家から大道寺家を経て、漢学者で歴史家の外崎覚とのさきかくが設立した津軽古図書保存会の手に渡り、外崎覚が歴史研究に資するため帝国図書館に寄贈、他に事件関係の書類一切は津軽伯爵家が蔵すといった旨が記されている(写真2)。現在、相馬大作事件関係資料を始めとする津軽伯爵家の旧蔵文書

は、国文学研究資料館が所蔵している。

写真3は、嘉兵衛の供述書で、「南部福岡住 下斗米秀之進 卅三歳 但背五尺三寸位 頬骨高き方…南部花輪住 関良助 廿歳位 但背五尺九寸五歩 力量人に勝れ常に三尺余之長刀を帯し候…右両人は此度之張本人に御座候」と首謀者の容貌などを記す。写真4は、笠原八郎兵衛が幕府へ上申した自筆の覚書で、「…荷物之中より白羽二重之衣装取出四人共着秀之進良助儀は鉢鉄を冠短筒を持惣藏小太郎儀は鎖頭巾を冠夫より竹筒之鉄砲廿挺計取出火縄へ火を付御通相待…」と襲撃直前の状況を記す。写真5は、笠原八郎兵衛が事件の始末を記した箇所、事件の原因は「南部家不幸にて昇進無之儀」にあり、嘉兵衛の密告後、寧親一行が帰路を海沿いのルートに変更した様子を記している。

平戸藩主松浦静山まつらせいざんは『甲子夜話』の中で、大作について「その愚なること児戯に類す」と酷評したが、藤田東湖や吉田松陰は、忠孝の義士として追慕した。江戸市中でも、南部の赤穂浪士として評判になり南部藩に同情、驕奢や幕閣への賄賂でひんしゆくを買っていた津軽藩を憎む風潮が広まった。小説(写真6)や講談(写真7)では、大作の忠勇義烈の姿が人気を博し、津軽藩は悪者扱いされた。その内容は、大作が3代に渡る津軽藩主を次々に暗殺したり、侠客が味方したりと、史実とは違う荒唐無稽な話になっている。

当館所蔵のこの書類は、事件をめぐる人間関係、殊に、外交手腕に長けた笠原八郎兵衛が、大作らの捕縛、処刑を幕閣にいかにかきかけたかや、賄賂や証人たちの困り込みの実態などが分かるとても興味深いものだと見える。

(かわもと つとむ 利用者サービス部人文課)



写真1
「相馬大作：忠孝節義」亀井米（湧溢）著
中近堂 1892 <請求記号 43-114>
*巻頭「下斗米将真君肖像」（石版）



写真2 「相馬大作白沢一件書類」第1冊 巻頭

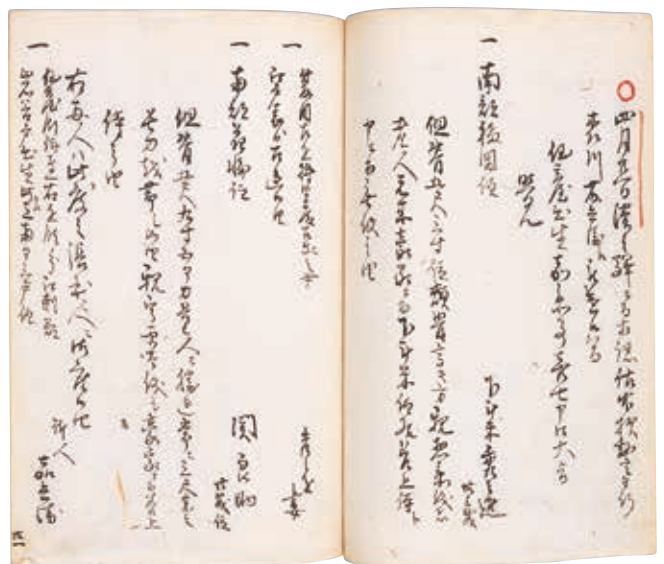


写真3 「相馬大作白沢一件書類」第1冊 30丁裏～31丁表



写真4 「相馬大作白沢一件書類」第4冊 16丁裏～17丁表



写真5 「相馬大作白沢一件書類」第4冊 46丁裏～47丁表

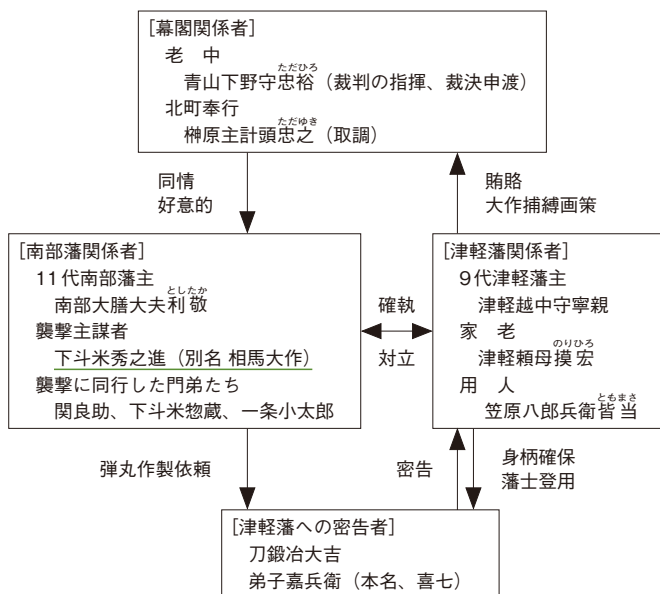


写真6 「山相馬大作忠勇傳」
夢香仙史 編 中桐れい 1890
<請求記号 特10-695>
*表紙（石版）須賀留（津軽）藩
主一行に張抜筒の鉄砲を打ち放
そうとする大作



写真7 「相馬大作：松山実記」
神田伯竜 講演、丸山平次郎 速記
中川玉成堂 1902
<請求記号 特9-247>
*表紙（木版 多色刷り）馬上の
津軽藩主を暗殺しようとする馬
丁に扮した大作

参考文献

- 「相馬大作と津軽頼母」 長谷川伸 著 徳間書店 1987 <請求記号 KH119-491>
- 「下斗米大作実伝」 下斗米与八郎 編 下斗米耕造 1922 <請求記号 398-79>
- 「津軽史 第20巻（相馬大作事件）」 永沢奉実 著 1990 <請求記号 GC13-18>

「相馬大作白沢一件書類」写 5冊（全364丁）
24.0cm × 16.5cm 和装 <請求記号 127-40>
明治31年11月11日、外崎覚氏より寄贈
*東京本館所蔵

世界図書館紀行

ボストン

藤本 守

筆者は2011年秋、ボストンのハーバード大学ロースクール図書館とケネディ大統領図書館を訪問する機会を得た。ここでは、アメリカ草創期の歴史を彩る古都ボストンの街並みとともに、両図書館の様子をご紹介しますこととしたい。

写真1 旧マサチューセッツ州議会議事堂
2階のバルコニーから独立宣言が読み上げられたという。左下に見えるのは1770年に起こったボストン虐殺事件跡を示す円形の石。



写真2 ポストンコモンとパークストリート教会

1 ポストン — 歴史の息づく街

アメリカ北東部に位置するマサチューセッツ州の州都ポストンは、17世紀にイギリスから入植した移民たちが建設した街であり、草創期アメリカの政治・経済の中心であった。18世紀後半、イギリスはフランスとの戦いによって財政難に陥り、植民地アメリカの増税を目論んだが、入植者たちはそれに反抗し、やがてアメリカ独立運動へと発展する。ポストンはその主要な舞台ともなった。

1773年、イギリス本国は、イギリス東インド会社にアメリカへの紅茶の独占輸送・販売権を与えたが、これを植民地経済への圧迫ととらえた一部の植民地市民が、ポストン港に停泊していた東インド会社の紅茶を海に投棄した。イギリスとアメリカとの対立を決定的にした、この「ポストン茶会事件」は、その名をご存知の方も多いただろう。

それ以外にも、アメリカ独立戦争(1775-1783年)のモニュメントとして知られるバンカー・ヒル記念塔、1776年にアメリカ独立宣言が読み上げられた旧マサチューセッツ州議会議事堂(写真1)など、ポストンには独立戦争ゆかりのスポットが点在している。

また、ポストンは、歴史だけでなく、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学といった世界的な教育機関、ポストン美術館、ポストン交響楽団などの芸術関係機関、プロスポーツの本拠地としての顔も持つ、多彩な街として知られている。

ポストン湾に浮かぶ空の玄関口ローガン空港から公共交通機関、通称“T”のシルバーライン(バス)とレッドライン(地下鉄)を乗り継いで約30分、ポストン中心部のパークストリート駅を降りると、そこはアメリカ最古の公園とされるポストンコモン(写真2)である。その目の前にはパー



写真3 トリニティ教会

クストリート教会、すこし歩けば、先にご紹介した旧マサチューセッツ州議会議事堂がある。パークストリート教会は、1829年に奴隷解放活動家ウィリアム・ロイド・ガリソン（William Lloyd Garrison 1805-1879）が初めて奴隷制度廃止を主張した場所として知られる。到着早々、歴史的建造物を身近に見ることができるのがうれしい。

ボストンコモン周辺を歩いていると、2列の赤レンガが道に敷かれているのがわかる。これは全長約4kmのフリーダムトレイル（Freedom Trail）¹と呼ばれ、独立運動ゆかりの史跡を辿るルートとして、多くの観光客が訪れる。

また、ボストンコモンの西側に広がるバックベイ地区には1877年建立のトリニティ教会(写真3)、その隣には52階建てのプルデンシャルセンター・スカイウォーク展望台など、古い建物と新しいビ

ルが街に同居しており、訪問者の興味にあわせて街歩きが楽しめる。

2 ハーバード大学

ロースクール図書館

ボストンの中心街ダウントウンからレッドラインに乗って10分弱、ケンブリッジ市のハーバード駅に降り立つと、右手にレンガ造りの建造物の群が見えてくる。これがハーバード大学である。ロースクール（法科大学院）は、大学を右に見ながら2～3分歩いた、公園（ケンブリッジコモン）と道路をはさんだ一面にある。

ハーバード大学自体の創設は、アメリカ独立以前の1636年だが、ロースクールは1817年の設立である。18世紀末から19世紀初頭にかけて、

アイザック・ローヤル (Isaac Royall, Jr. 1719-1781) とその一族がロースクール設立のために財産を提供したのがきっかけとなった。以来、アメリカのみならず世界各国の法曹界・実業界に有為の人材を輩出している。

図書館はロースクールとともに設立されたもので、現在約200万点以上の蔵書数を誇り、学生約1,900名、教員約240名のための情報資源としての役割を担っている。図書館があるラングデル・ホール (Langdell Hall) (写真4) は²、元裁判官でロースクールの初代学部長を務めたクリストファー・コロンブス・ラングデル (Christopher Columbus Langdell 1826-1906) の名が冠されている。1870年に学部長に就任したラングデルは、「ソクラテス・メソッド」を導入した人物として知られる。「ソクラテス・メソッド」というと、耳慣れないように思われるかもしれないが、教師が学生に質問を投げかけ、学生の応答に対してさらに質問を投げかける、そのプロセスの中から多様な意見を共有し、問題への考察を深めていくというもので、ハーバード大学哲学科教授マイケル・サンデル (Michael J. Sandel 1953-) の講義でご存知の方も多いただろう。

ラングデル・ホールは地上4階、地下1階建てで、その4階には広大な開架閲覧スペース (写真5) があり、また、学生のグループワーク用の個室が多数配置されている。個室にはそれぞれ同校の卒業生で図書館に寄付を行った人物の名前が付けられており、デザインも各部屋で異なるとのことであった。アメリカでは大学への寄付に対する税の軽減措置があるためか、母校への寄付が盛んに行われているようである。その額は日本の大学の数十倍にのぼる。大学で懸命に学び、その成果を社会で発揮した卒業生たちが抱く、母校への愛着や恩返しへの念が感じられる。

また、実際にグループワーク用個室で議論をしている学生たちの様子を見て、教育機関における図書館の役割が時代とともに変化していることも実感できた。図書館のイメージとして、資料が書架に整然と並べられ、閲覧機で利用者が一人黙々と読書や調べ物をする静謐な場所を思い浮かべる方も多いただろう。

しかし、近年では、学生や研究者たちが図書館の資料を用いながら議論を交わし、知識を共有し深めていく場、ラーニング・コモンズとして図書館を位置付けることがアメリカのみならず日本の大学図書館でも浸透しつつある。従来型の図書館サービス、すなわち資料提供やレファレンスにとどまらず、知識の創造・共有を支援し、快適な学習・研究環境を提供しようというラーニング・コモンズの今後の展開が気になるところである。

ラングデル・ホール内の特別コレクション室 (Special Collection Room) (写真6)³には、英米法、大陸法関係の資料を中心に、刊本、パンフレット、ブロードサイズ (片面刷りの文書・広告類) 等の一枚もの、手稿などが約20万点、その他に440以上の個人コレクション、45,000点以上の絵画、写真、古物資料を所蔵している。また、一部の資料については、インターネット上で画像が公開されている⁴。

今回の訪問では、室内の工事が行われていたため、残念ながら内部の見学や資料の閲覧はできなかったが、個人コレクションの一つで、極東国際軍事裁判 (東京裁判) で首席判事を務めたキーナン (Joseph Berry Keenan 1888-1954) の書簡や書類等を含む個人文書の受入れやインターネット公開について、お話を伺うことができた。この資料は、従来は閲覧のみ (複写および筆写禁止) の利用であったが、2009年の8月に同校のデジタルライブラリーでインターネット公開され



写真4 ハーバード大学ロースクール図書館
(ランゲデル・ホール)



写真5 閲覧室 (ランゲデル・ホール内)



写真6 特別コレクション室 (ランゲデル・ホール内)



写真7 ジョセフ・キーナン(1945年12月7日、東京での記者会見にて)
Joseph Berry Keenan at a press conference, Dec.7, 1945
(Historical & Special Collections, Harvard Law School Library, VIA Record ID: olvwork379131)



写真8 キーナンとダグラス・マッカーサー (1880-1964)
Joseph Berry Keenan walking General Douglas MacArthur,
ca. 1945-1947 (Historical & Special Collections, Harvard Law School Library, VIA Record ID: olvwork379130)

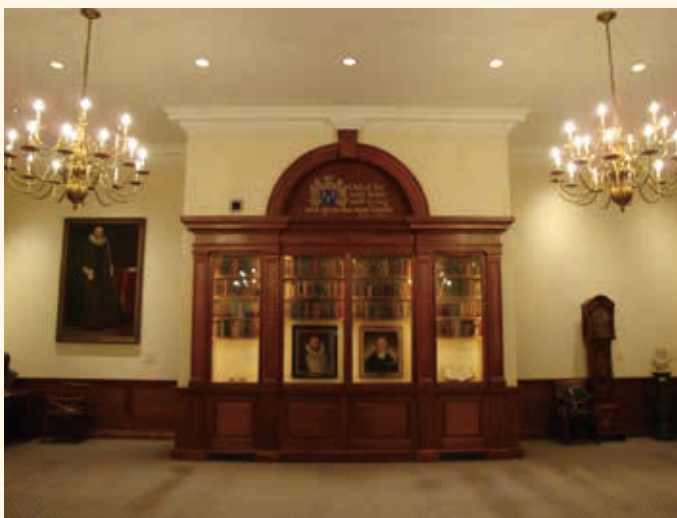


写真9 キャスパーセン・ルーム (ランゲデル・ホール内)

た⁵ (写真7, 8)。当資料については、日本の研究者等からの公開要望が強く、それがインターネット公開を促したとのエピソードは大変興味深かった。

貴重書や絵画、古物資料を展示しているキャスパーセン・ルーム (Caspersen Room) (写真9) には、同校ゆかりの人物の所蔵品があり、例を挙げると、ロースクール創始者のローヤル家の肖像画、同校の教授を務めたオリバー・ウェンデル・ホームズ・ジュニア (Oliver Wendell Holmes Jr. 1841-1935) に関わるものなどがある。ホームズは、初代首相伊藤博文 (1841-1909) の側近、金子堅太郎 (1853-1942) の米国留学中の教師であった人物で⁶、1902年からは約30年にわたって、アメリカの連邦最高裁判所判事を務めた。

キャスパーセン・ルームの中央奥の展示棚の上には、ロースクールの紋章⁷とモットー “Out of the old fields must spring and grow the new corn” が掲げられていた。紋章はもともとローヤル家の紋章 (three stacked wheat sheaves = 三束の麦穂) であり、またモットーは16世紀後半から17世紀前半にかけて活躍したイギリスの法学者で、植民地時代のアメリカにも影響を与えたエドワード・コーク (Sir Edward Coke 1552-1634) が好んで用いたものだという。この紋章とモットーは、新たな芽を生み、そして穂を実らせるための学びの場を表しているという。現に、100年以上にわたって同校が優秀な人材を輩出し続けてきたことから、その基本理念が今も息づいていることを実感できた。

3 ケネディ大統領図書館

ボストンの中心街ダウタウンから、地下鉄のレッドラインで約10分、JFK・マサチューセツ大学駅で下車し、そこから無料のシャトルバス

に乗ると5分ほどでケネディ大統領図書館 (写真10) に到着する。図書館の目前は大西洋につながる湾岸で、ボストン近郊の高層ビルや空港を見通せる絶好のロケーションである。

アメリカの大統領図書館は、一般的にイメージされる図書館ではなく、米国国立公文書館 (National Archives and Records Administration) の管轄下にある公文書館であり、所蔵資料の展示を行う博物館としての役割をあわせ持つ。大統領図書館は大統領の出生地やゆかりの場所に設置される場合が多く、最近ではジョージ W. ブッシュ (George W. Bush 1946-) 元大統領の図書館がテキサス州ダラスにオープンしたのは記憶に新しい⁸。

ケネディ (John Fitzgerald Kennedy 1917-1963) はボストンに隣接するブルックライン市生まれで、マサチューセッツ州選出の上院議員であった。生前、ケネディは母校ハーバード大学の隣に、大統領時代の自らの記録を保存する施設、そして引退後のオフィスの建設を構想していたが、ケネディの死後、現在の場所に建設されることになった。開設は1979年10月のことである。

ケネディ大統領図書館には、現在4,800万ページの文書、800万フィート長のフィルム、40万点の写真、16,000点の古物、その他音声資料、ビデオなどが保存されている。その一部は展示室 (有料) にトピックごとに陳列されているが、それらを見る前に、ケネディの幼少期から大統領選出馬までを追った20分弱のショートフィルムを鑑賞し、それを見終えてから展示室に入る仕掛けとなっている。

最初の展示は1960年の大統領選に関するものである。当時の選挙事務所や、開票状況を伝えるニューススタジオが再現されており、またケネディ、ニクソン (Richard Milhous Nixon 1913-1994) 両大統領候補によるテレビ討論の様子や当時の



写真10 ケネディ大統領図書館



写真11 President Kennedy swears Oath of Office, 20 Jan, 1961
(PX65-108-SC578830, John F. Kennedy Presidential Library and Museum)
http://www.jfklibrary.org/Asset-Viewer/Ut_a-Ncynkypyx5rNJkCgQ.aspx



写真12 Watching flight of Astronaut Shepard on television, 05 May, 1961
(ST-116-9-61, John F. Kennedy Presidential Library and Museum)
<http://www.jfklibrary.org/Asset-Viewer/GnDbngzqGOWdkSmjk5rHHQ.aspx>

ニュース映像が放映されるなど、視覚・聴覚に訴える展示になっている。

ちなみに、アメリカ大統領選挙で恒例となっているテレビ討論はこの時はじめて行われたとされる。1950年時点で全世帯の11%に過ぎなかったテレビ保有率は、ケネディ、ニクソンのテレビ討論があった1960年には88%に達していた。討論会でのケネディの服装や言動は視聴者を意識したものであったとされ、討論をラジオで聞いた人はニクソンが討論に勝ったと感じ、テレビで見た人はケネディ勝利と受け止めた、との逸話はテレビの影響力を改めて感じさせてくれる⁹。

選挙の結果、両者が各州で獲得した選挙人数はケネディ303、ニクソン219で差が開いたが、全体の総得票数の差はわずか10万票という大接戦であり、展示からも当時の選挙戦の激しさが伝わってくるようであった。

また、ケネディの大統領就任後、ベルリンの壁建設に端を発したベルリン危機（1961年）や、ソ連によるキューバへの核兵器持ち込みをめぐる米ソ間の核戦争の緊張が高まったキューバ危機（1962年）など、東西冷戦の只中でそれらの対応に苦慮するケネディらホワイトハウスのスタッフの様子が資料とともに紹介されており、当時の緊迫した様子を感じることができる。

政治関係の資料以外にも、アポロ計画に代表される宇宙開発関係のコーナーもあり、当時の宇宙服や宇宙飛行士の写真などが紹介されていた。また、ケネディが世界各国の元首から贈られた品物なども展示されているが、ひととき異彩を放っていたのが古代エジプトで制作されたとされる石灰岩の彩色塑像である。これはエジプトでのアスワンダム建設に際し、水没の危機に瀕したアブ・シンベル神殿の移設・保存活動に貢献したとして、エジプト政府から送られたものであるという。

ケネディ自身に関わる資料以外にも、妻ジャクリーン（Jacqueline Lee Bouvier Kennedy Onassis 1929-1994）のファーストレディーとしての活動やファッションの展示、弟で司法長官を務めたロバート・ケネディ（Robert Francis Kennedy 1925-1968）に関する資料もあり、ケネディー家とその周辺についても豊富な資料をもとに知ることができる。

それまでの多種多様な資料の展示とは雰囲気が一転するのは、ケネディ暗殺に関する展示である。黒い壁に掲げられた「22 November, 1963」の文字、そして壁に埋め込まれた5台のモニターが、暗殺に関する当時のニュース速報や葬儀の様子を淡々と映し出していた。

展示スペースを抜け、パビリオンと呼ばれるガラス張りのアトリウムに出ると、天井から吊り下げられている巨大なアメリカ国旗に目を奪われる。視線をガラスの外に移すと、目前に広がる空と湾岸、そしてその向こうのボストンの街並みを一望できる。夕暮れ後に見た市街地の明かりはとも美しかった。

なお、見学から一歩進んで、当時の資料をじっくり読んで調査したい場合は、事前予約の上、さらに来館時にアーキビストと面談を行って調査資料を絞り込む必要がある。ただ、来館しなくても、同館のホームページに所蔵資料のデジタルコレクションがあり、インターネットで一部の文書、写真、映像資料の検索、閲覧ができる（写真11、12）。興味のある方は参照していただきたい¹⁰。

（ふじもと まもる

利用者サービス部政治史料課）

謝辞：ハーバード大学ロースクール図書館見学にあたり、同館司書の本宿マリ子氏にご案内いただいた。感謝申し上げます。

- 1 ポストン国立公園の一部。ポストンコモンからチャールズタウンのバンカー・ヒル記念塔まで続き、市内の主要な観光地16ヶ所を巡ることができる。
 - 2 学外の利用者による資料閲覧は、訪問前の申請が必要（有料）。詳細は同館ウェブサイトの利用案内ページを参照。
(<http://www.law.harvard.edu/library/services/admission/index.html>)
 - 3 資料の閲覧には事前予約が必要。詳細は同館特別コレクション室ウェブサイトの利用案内ページを参照。
(<http://www.law.harvard.edu/library/special/visit/index.html>)
 - 4 同館のDigital Collections and Exhibitions ウェブサイトを参照。なお、このサイトでは平安期から安土桃山期にかけての古文書22点が公開されている。
(<http://www.law.harvard.edu/library/digital/index.html>)
 - 5 Joseph Berry Keenan Digital Collection
(<http://www.law.harvard.edu/library/digital/keenandigital-collection.html>)
 - 6 Holmes の資料は2012年12月に同館のデジタルライブラリーで公開されたが、その中には金子堅太郎の写真や書簡類も含まれる。
(<http://library.law.harvard.edu/suites/owh/>)
 - 7 ハーバードロースクールの紋章の図柄は同校ウェブサイトを参照。
(<http://www.law.harvard.edu/>)
また、紋章の由来は同館のAsk a Librarian! ウェブサイトの該当ページを参照。
(<http://asklib.law.harvard.edu/a.php?qid=37308>)
 - 8 日向智昭 「世界図書館紀行 アイゼンハワー大統領図書館」 本誌627(2013年6月)号 pp4-10 参照。
 - 9 “Campaign in 1960”
ケネディ大統領図書館ウェブサイト
(<http://www.jfklibrary.org/JFK/JFK-in-History/Campaign-of-1960.aspx>)
 - 10 ケネディ大統領図書館デジタルコレクション
(<http://www.jfklibrary.org/Research/Search-the-Digital-Archives.aspx>)
なお、日本関係の資料では、1960年代の池田勇人首相（1899-1965）との会談に関する文書や写真類が保存されている。
- ※ 写真1～6、9～10は筆者が撮影。

複写カウンターにて

国立国会図書館東京本館には5つの複写カウンターがあり、カウンターでの複写の申込みの数は年間約100万件にのぼります。今回は複写カウンターでの受付を中心に紹介します。

受付ではおもに次の3点を確認しています。

まずは、著作権に関わる確認です。図書館での複写は著作権法に基づいて行われるため、使用目的や複写の範囲などに一定の要件があります。これらを満たしているかを実際の資料を見ながら確認し、問題がある場合は要件に適合するように申込みの修正をお願いしています。

次は、資料の状態の確認です。日本で唯一の納本図書館である当館の所蔵資料を国民の文化的資産として永く保存し後世に伝えていくため、1点ずつ資料の状態を確認し、複写に耐えられるかどうかを判断しています。古くなって傷みが進んでいるような場合は破損を防止するため、資料を上向きに置いて複写する特殊な複写機を使用することもありますし、複写そのものをお断りすることもあります。

最後に、申込み内容の確認です。資料に挟まれたしおりと申込書を照らし合わせて、記載と一致しているか、申込みが作業上の観点から設定しているページ数や複写方法などの制限に適合しているかを確認しています。

こうした確認は短時間で済むこともあります



が、複写箇所指定が複雑な場合や著作権上の判断が難しい場合などは時間をいただくこともあります。筆者も不慣れな頃はカウンターに列ができているのを見ただけで慌ててしまいましたが、この頃は慌てずに素早く確認できるようになったと思います。

最近では従来の複写に加えてプリントアウトの申込みが増えています。事前にプレビューを確認していただいているため、受付はスムーズな場合が多いのですが、申込方法に複雑な部分があり、また機器に不慣れな方もいらっしゃるため、案内に苦労することも少なくありません。

複写サービスは資料の利用と保存の両立を図りながら著作権法の認める範囲内で提供しています。そのため、ご要望にお応えできないこともあります。ご理解いただけるように丁寧な説明を心掛けています。

(複写課館内複写係 ひつじ)

憲政資料室の新規公開資料から

国立国会図書館は、幕末・維新时期から現代にいたる政治家、官僚、軍人らの所有していた個人文書（憲政資料）を所蔵しています。

このたび東京本館憲政資料室で新規に公開した資料をご紹介します¹。



写真1 大正14年日記 上原勇作関係文書 129

上原勇作関係文書 (219点 平成25年1月・2月公開)

上原勇作は、明治から大正にかけて陸軍大臣、教育総監、参謀総長等を歴任した陸軍軍人です。

とくに大正元（1912）年の2個師団増設問題で、陸軍大臣として西園寺内閣を総辞職にまで追い込んだことは有名です。

¹ この記事では寄贈を受けた点数を一律に示したため、実際に公開した点数と若干異なる場合があります。

これまで、上原勇作関係文書は、首都大学東京図書情報センター所蔵の書簡、書類²が知られていましたが、このたび上原家に残されていた日記類が刊行³されたのを機に、自筆日記、上原発信書簡および上原の長男で貴族院議員であった上原七之助の関係資料等が、尚友倶楽部を通じてご子孫から当館へ寄贈されました。またこれに合わせて、日記刊行にたずさわった研究者から伝記編纂関係資料の寄贈を受け公開することとなりました。

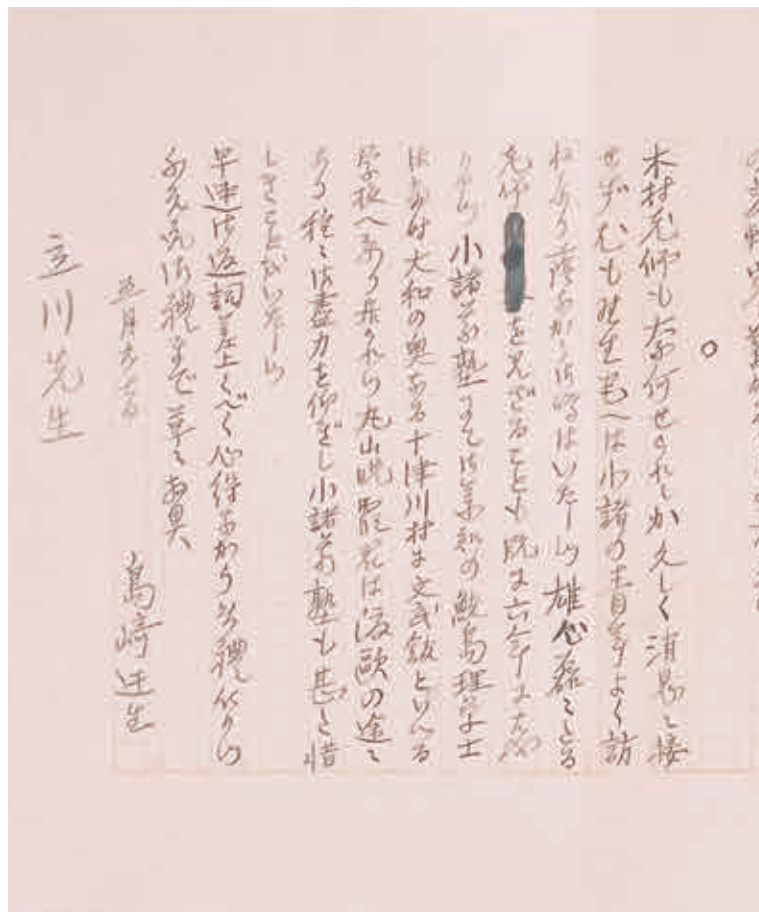
写真1は、大正14（1925）年の日記です。4月8日の項には、高橋是清の立憲政友会総裁辞任を受け、後任に田中義一陸軍大將が就任（4月13日）する件に関して、軍事参議官會議が開かれたことが記されています。

なお、上原七之助とその妻愛子に宛てられた義父中村是公（愛子の父）の書簡からなる「中村是公関係文書」も平成24（2012）年10月に公開されています。

- 2 上原勇作関係文書研究会編『上原勇作関係文書』（東京大学出版会 1976）で一部を翻刻。
- 3 尚友倶楽部編『上原勇作日記』（芙蓉書房出版 2011）で大正6（1917）年～昭和6（1931）年（大正10（1921）年・12（1923）年を除く）の日記を翻刻。

上原勇作（1856-1933）

安政3（1856）年宮崎生まれ。明治12年（1879）年陸軍士官学校卒。明治14（1881）年フランスに留学。第4軍参謀長、第7師団長、第14師団長を経て明治45（1912）年第2次西園寺内閣陸軍大臣。のち教育総監、参謀総長を歴任。昭和8（1933）年死去。



たつかわうんべい 立川雲平関係文書

（16点 平成25年8月公開）

立川雲平は淡路島出身で、明治時代に長野を地盤として活躍した民権政治家です。立川の伝記（田川五郎『最後の民権政治家 立川雲平』立川昌介刊 2011）⁴が刊行されたのを機として、このたびご子孫から資料が寄贈されました。

資料は、立川宛の書簡類が中心で、おもなものは3巻の巻物に仕立てられています。帝国議会で活動していた時期のものを主として、大岡育造、河野広中等の政治家や、板垣退助夫人、また、島崎藤村、巖谷小波等の文学者も含まれており、立川の幅広い交遊関係がうかがえます。また政界引

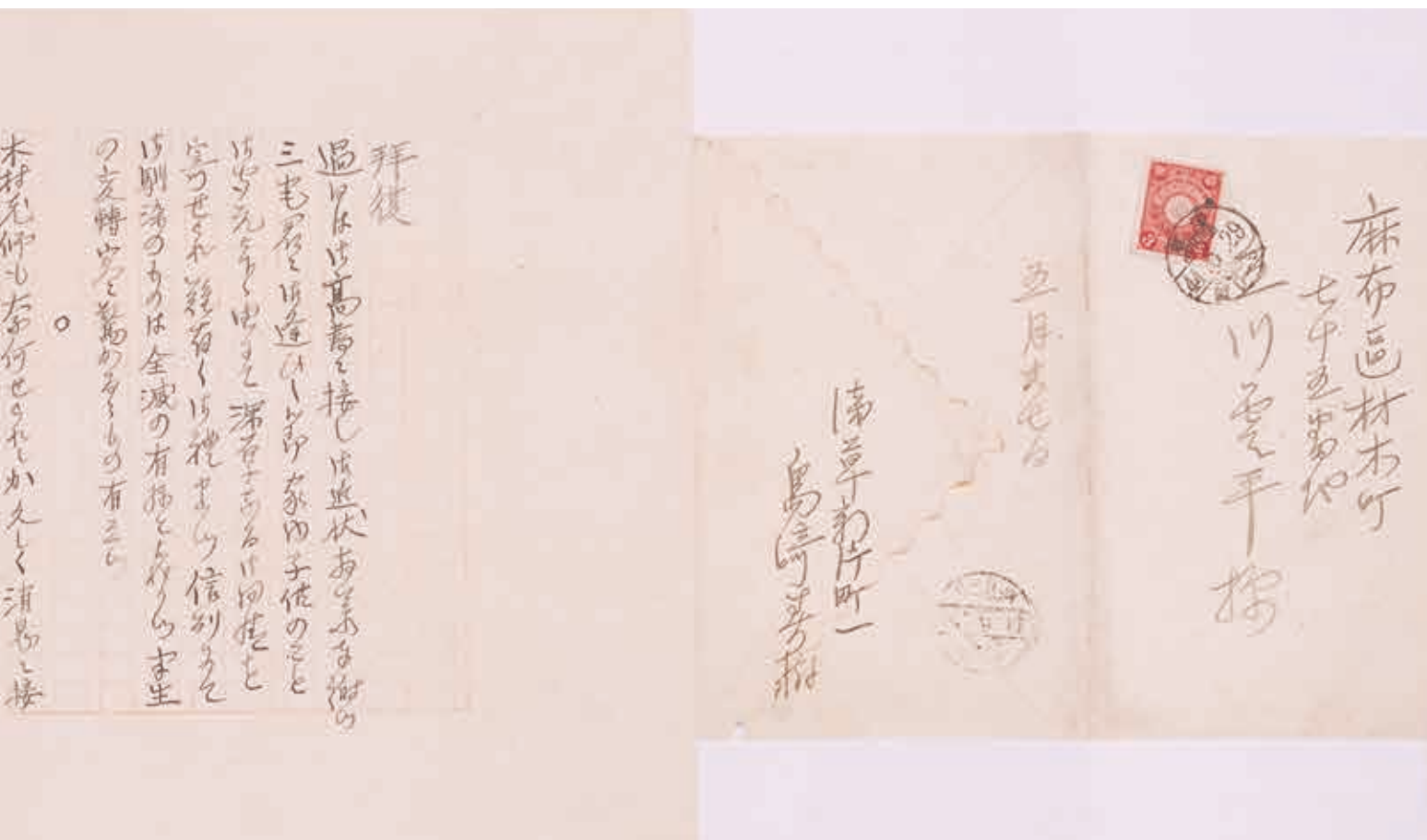


写真2 島崎藤村書簡 立川雲平宛 明治44年5月27日付 立川雲平関係文書 1-7

退後、大連へ移住した時代の、当地の労働問題に関する所見を表した自筆原稿も含まれています。

写真2は、明治44（1911）年5月27日付で島崎藤村から送られてきた書簡です。この中で藤村は、二人と交流のあった小諸義塾の関係者の消息について触れています。特に「木村老師」こと木村熊二（1845-1927）は、立川が洗礼を受けるまでに影響を与えたキリスト教の教育者であるとともに、小諸義塾の創立者でもあり、藤村を同塾の教師として小諸へ招へいした人物です。なお、立川は島崎藤村の『破戒』に登場する市村代議士のモデルといわれています。

4 本誌610号（2012年1月）「本屋にない本」p.29を参照。

立川雲平（1857-1936）



安政4（1857）年淡路島生まれ。明治8（1875）年京都へ遊学。岸田俊子、小室信介などの民権派の人々と交遊関係を深めた。明治法律学校に入り、代言人試験に合格。明治20（1887）年信濃大懇親会で条約改正に反対して建白書提出を提案。明治25（1892）年衆議院議員当選（当選3回、自由党、立憲政友会）。明治38（1905）年政府の社会主義者弾圧を批判する議会演説をおこなったが、疑獄事件に巻き込まれ、明治42（1909）年政界引退。以後大連に渡り弁護士開業、市会議長就任。昭和11（1936）年死去。

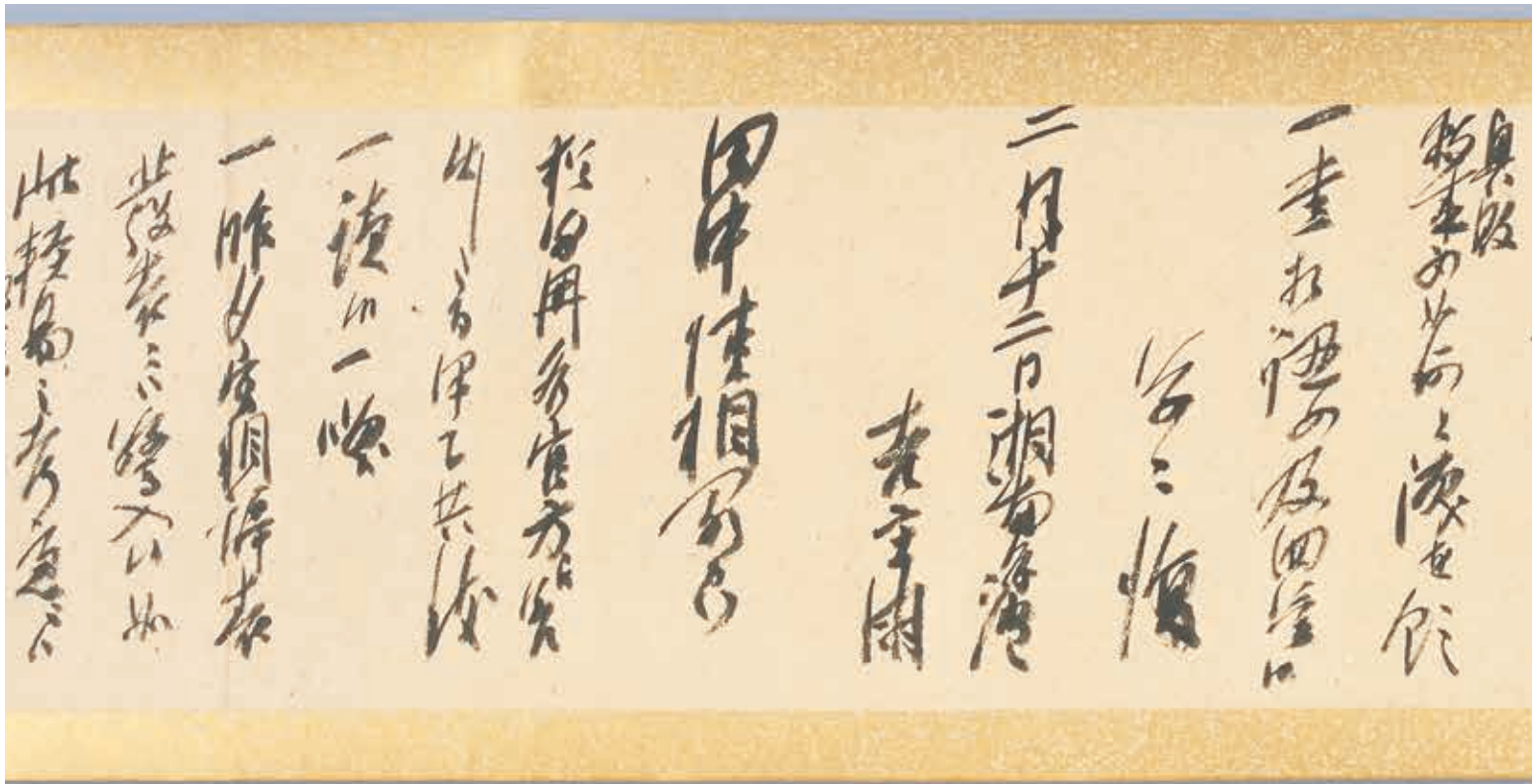


写真3 山県有朋書簡 田中義一宛 大正10年2月12日付 田中義一関係文書(所蔵) 141

田中^{ぎいち}義一関係文書(所蔵) (142点 平成25年8月公開)

田中義一は陸軍大将から政治家になった人物で、昭和2(1927)年から4(1929)年にかけて内閣総理大臣兼外務大臣を務めました。この時期、日本は中国との緊張関係を強める一方、国内では護憲三派内閣成立の過程で分裂した政友会と政友本党の合同問題が紛糾していました。

このたび公開した資料は田中家旧蔵と推察され、平成24年に当館が購入により収集した資料です。

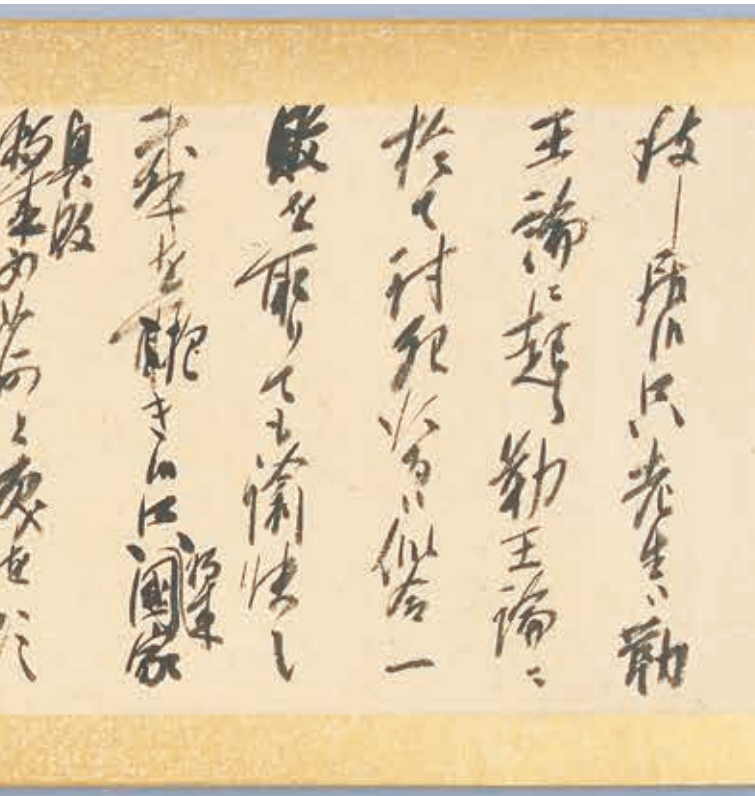
資料は、田中が立憲政友会総裁に就任した大正14(1925)年から、張作霖爆殺事件の責任をとって首相を辞任する昭和4(1929)年にかけて受けた書簡が中心です。政友会内部の人事問題、外交・軍事問題、政本合同問題などに触れた内容

となっています。その他には、外遊中の伊藤博文に宛てた原敬の書簡や幕末の桂小五郎(木戸孝允)書簡、長男の田中龍夫関係の資料も一部含まれています。

写真3は、原敬内閣のときに起こった「宮中某重大事件」について、山県有朋が同郷の田中にいきさつを書き送ったものです。「宮中某重大事件」とは、皇太子裕仁の婚約問題に端を発する政治問題を指します。世間では、宮中に勢力を持っていた山県の陰謀とみなされたため山県批判が噴出しました。

書簡は、宮内省が婚約内定に変更がないことを発表した2日後の大正10(1921)年2月12日付のもので、勤王家としての山県の悔しい思いが伝わります⁵。

なお、憲政資料室では田中義一の長男にあたる



田中龍夫の旧蔵文書（「田中龍夫関係文書」86点、企画院・軍需省勤務時代の資料等）も、別途購入により収集し、平成25年4月に公開しました。

- 5 同書簡の資料紹介として小林道彦「大正十年二月十二日付田中義一宛山県有朋書翰」（末尾部分）（『日本歴史』781 2013.6 口絵解説）がある。

田中義一（1864-1929）

元治元（1864）年山口生まれ。明治25（1892）年陸軍大学校卒、ロシア駐在、参謀本部を経て、明治40（1907）年歩兵第3連隊長。陸軍省軍務局軍事課長（在郷軍人会の創立に携わる）を経て、大正7（1918）年原内閣陸軍大臣。軍事参議官を経て大正12（1923）年9月第2次山本内閣陸軍大臣。貴族院議員を経て昭和2（1927）年4月内閣総理大臣兼外務大臣、昭和4（1929）年死去。



寺光忠（1908-1996）

明治41（1908）年広島生まれ。東京帝国大学法学部卒。昭和13（1938）年川越少年刑務所所長就任。貴族院事務局に入り、貴族院議事課長を経て昭和22（1947）年参議院議事部長、参議院法制局第2部長を経て昭和25（1950）年弁護士登録。監獄法改正問題へのかかわりも深い。平成8（1996）年死去。



寺光^{ただし}忠 関係文書

（第1次受入分：581点 平成24年8月公開、第2次受入分：102点 平成25年8月公開）

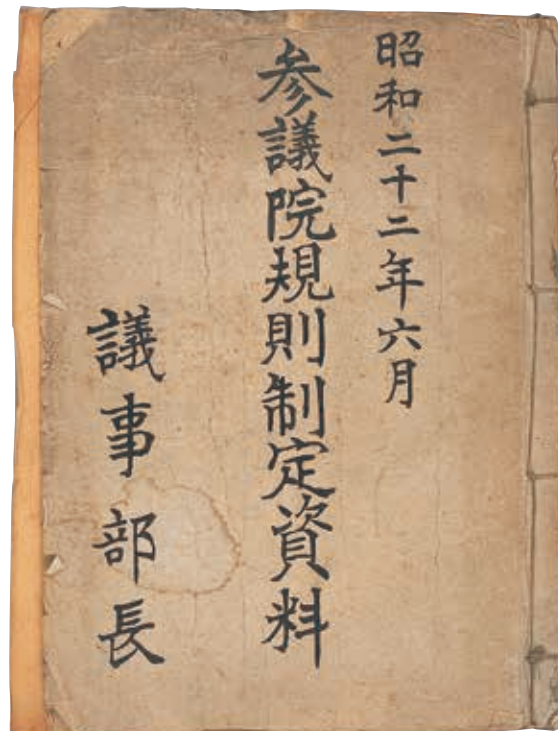
寺光忠は、東京帝国大学卒業後、川越少年刑務所長等を経て貴族院事務局に入り、参議院議事部長等を経て弁護士に転じた人物です。このたび2度にわたりご遺族から寄贈いただきました。

寺光が貴族院、参議院で勤務した時期は、帝国議会から国会へのまさに転換点でした。戦後、寺光は小林次郎（貴族院書記官長を経てのち参議院事務総長）のもとで、ジャスティン・ウィリアムズ（GHQ民政局）らとの交渉にもかかわります。国会改革のキーパーソンとして知られるウィリアムズは後年の著作で、当時の寺光を「有能で、端正な容貌を持つ貴族院事務局の職員だった⁶」と回想しています。第2次受入分には昭和17（1942）年から23（1948）年までにわたる日記やノートも含まれています。

- 6 ジャスティン・ウィリアムズ 著 市雄貴、星健一 訳 『マッカーサーの政治改革』 朝日新聞社 1989 p.212

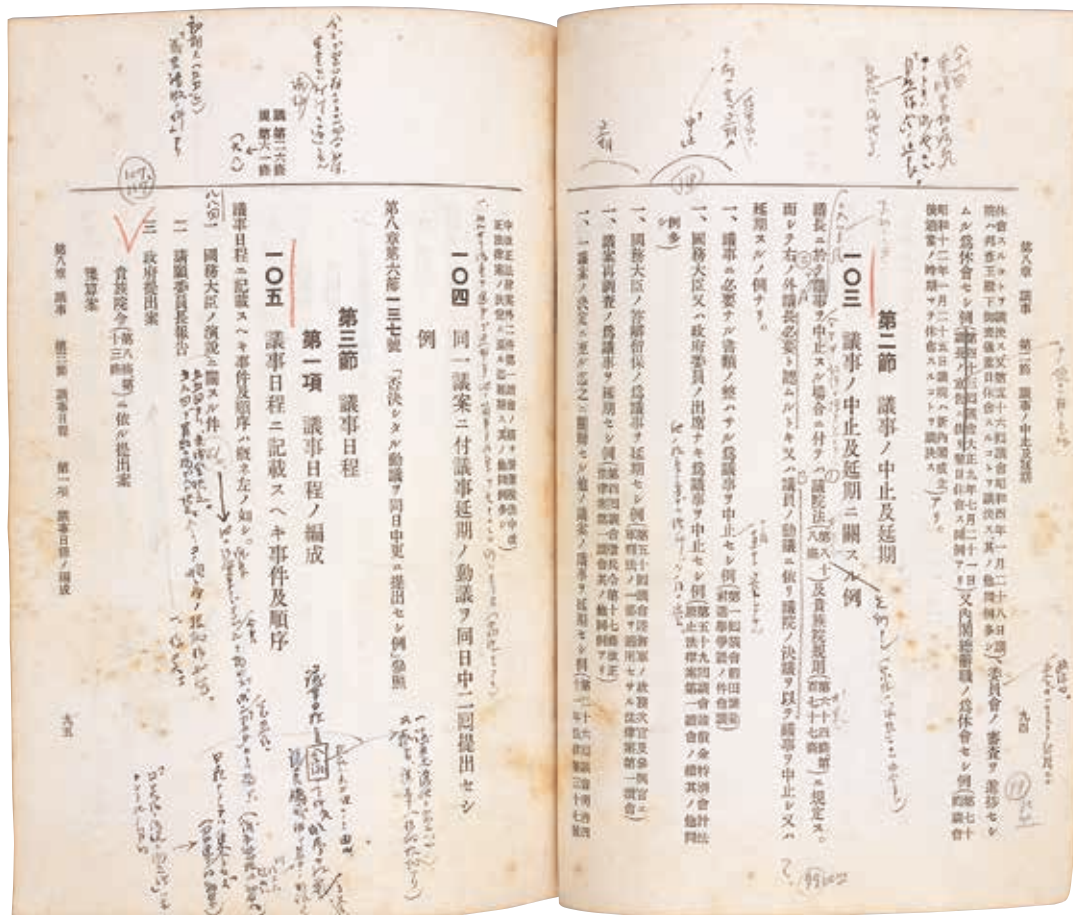
「参議院規則制定資料」(写真4)は当時の規則制定の経緯を伝える資料です。その他、議会運営に関する資料として、昭和14(1939)年の『貴族院先例録』(写真5)には、直筆の書き込みがあり、前例を理解しようとメモを繰り返す姿がうかがえます。

寺光は昭和25(1950)年に弁護士に転じ、いわゆる監獄法の改正問題にもかかりました。第1次受入分には、同法の改正にまつわる審議会の記録や記事の切抜類も含まれています。



右写真4 参議院規則制定資料 昭和22年6月 寺光忠関係文書 23

下写真5 『貴族院先例録 自第1回議会至第74回議会』 貴族院事務局 昭和14年 寺光忠関係文書 3 ページによってはびっしりと本人の書き込みがある。



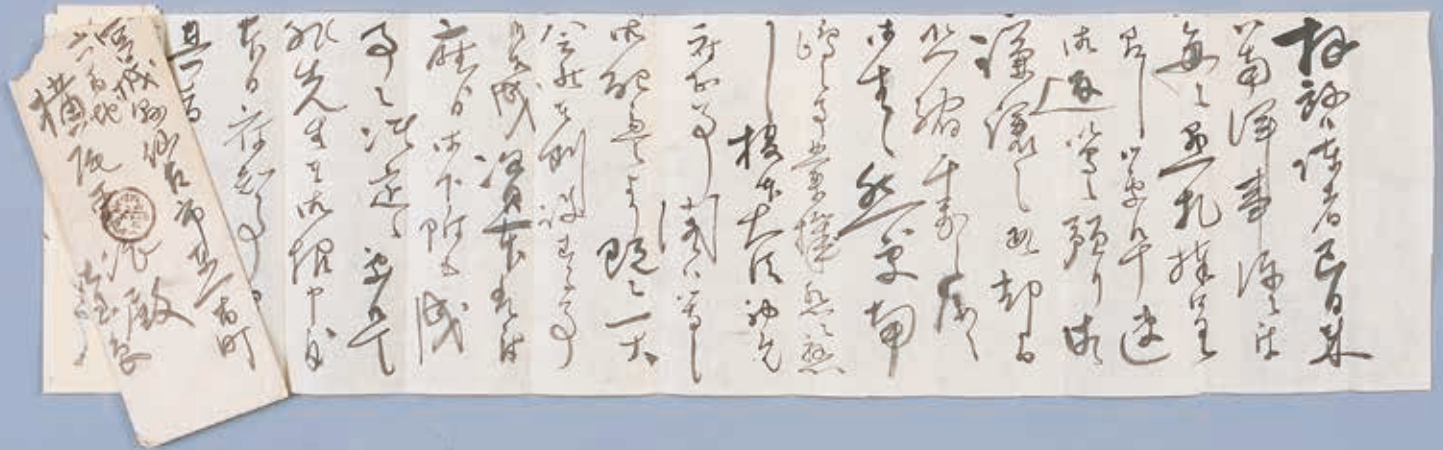


写真6 服部徹書簡 横尾東作宛 明治23年2月2日付 横尾東作関係文書 69-2

横尾東作関係文書

(229点 平成24年12月公開)

明治の南洋探検家という異色の経歴で知られる横尾東作のご子孫から旧蔵資料の寄贈を受けました。横尾は、もと仙台藩の士族で地元の英学塾で素養を積み、函館五稜郭の戦いでは幕府側に立って戦いました。のちに横尾は南洋探検への関心を深め、明治20(1887)年には明治丸に乗って南洋探検に出発し、硫黄島も探検しました。この文書には榎本武揚、田口卯吉らからの来簡など、横尾の探検を支援する関係者からの書簡も含まれています。

また、写真6は、同じく探検家として知られる服部徹から横尾に宛てられた書簡で、南島事業がいよいよ榎本文部大臣、高崎東京府知事らの間で決定の運びとなったとして横尾の参加を促す内容で、探検家同士の交流も垣間見えます。

新規公開資料のうち、戦後期を中心とする資料としては次の資料があります。

かいばら 海原治関係文書

(第1次受入分：4437点 平成24年10月公開、第2次受入分：1193点 平成25年5月公開)

海原治は防衛庁の防衛局長、長官官房長や内閣国防会議事務局長などの要職を務めた人物で、このたび2度にわたりご遺族から資料の寄贈を受けました。

第二次から第四次までの防衛力整備計画策定といたった安全保障上の重要課題にかかわる資料や、昭和32(1957)年6月の岸首相訪米時の日米交渉の関連資料など、わが国の防衛政策の軌跡にかかわる資料が含まれています。

かせとしかず 加瀬俊一関係文書

(86点 平成24年7月公開)

加瀬俊一は戦前から欧米勤務を続け、ロンドン海軍軍縮会議に随員として参加し、重光葵外務大臣の側近として終戦工作にもたずさわった外交官です。戦後は国連大使、ユーゴスラビア大使なども歴任し、外交評論家としても活躍しました⁷。

この文書の中心は、79点に及ぶ日記です(写真7)。昭和19(1944)年と終戦前後の時期は欠くものの、日記の年代は昭和18(1943)年から昭和54(1979)年という長い期間に及び、外交官、外交評論家としての加瀬の足跡を伝えるものとなっています。

7 同表記の外交官に、スイス大使を務めたかせしゅんいち加瀬俊一がいる。

しげはる 松本重治関係文書

(5748点 平成24年7月公開)

松本重治は東京帝国大学を卒業後、長く米国に留学したジャーナリストで、昭和7(1932)年に新聞連合社(のちの同盟通信社)に入社、昭和11(1936)年末に西安事件をスクープしたことで一躍その名をあげます。

松本は日中和平工作にもたずさわり、近衛文麿の側近として日米開戦回避工作にかかわりました。戦後は国際文化会館を創設するなど、国際文化交流に尽力します。

この文書はほぼ全てが戦後のもので、松本が創刊した『民報』に関連する書類や書簡、国際文化会館の活動に関する連絡文書など、内容は多岐にわたっています。



写真7 昭和22年の日記 加瀬俊一関係文書 4～7

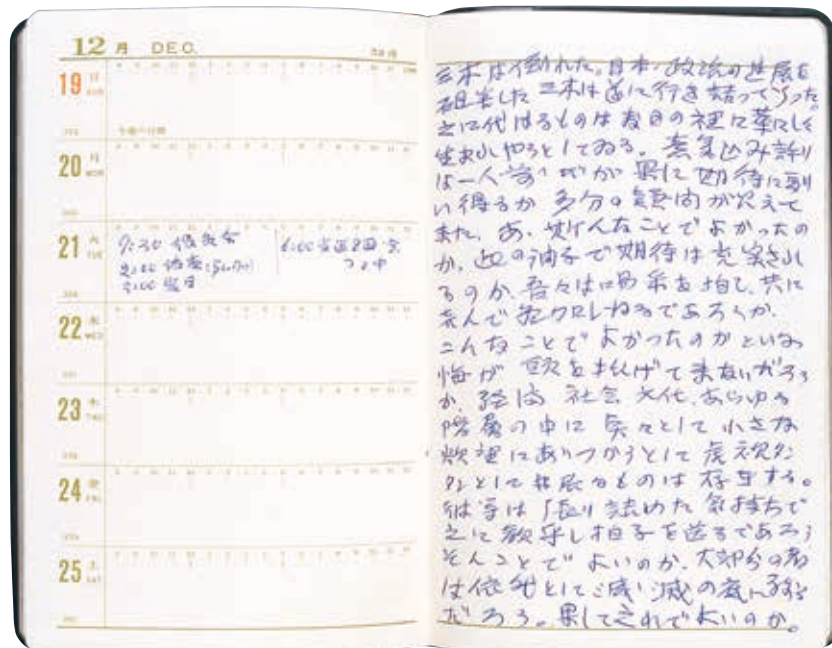


写真8 昭和51年手帖 12月19日 椎名悦三郎関係文書 107

また、従来公開していた資料を補う追加資料として芦田均、椎名悦三郎の各文書に加え、「日本国憲法制定に関する談話録音」の速記録も公開しました。

対照して芦田の活動をうかがうこともできます。

椎名悦三郎関係文書

(47点 平成24年8月追加公開)

芦田均関係文書（寄託）

(298点 平成24年11月追加公開)

平成24（2012）年8月、椎名悦三郎関係文書の追加公開を行い、昭和58（1983）年から公開している資料と合わせ、憲政資料室で閲覧できる「椎名悦三郎関係文書」の資料点数は137点となりました。また同時にこれまでの寄託資料から国立国会図書館所蔵資料になりました。

平成24（2012）年11月、芦田均関係文書の追加公開を行いました。これにより、平成7（1995）年から公開している資料と合わせ、憲政資料室で閲覧できる「芦田均関係文書（寄託）」の資料点数は2,691点となりました。

今回公開した資料は、昭和38（1963）年から54（1979）年までの手帖、椎名宛の書簡、書類です。昭和39（1964）年から41（1966）年の池田内閣から佐藤内閣にかけての外務大臣の時期の手帖には、ベトナム戦争や日中関係に関する所感が

今回公開した資料は、戦前期の書簡・書類です。書類には、外務省を辞して臨んだ初の立候補時からの選挙関係資料や、演説・ラジオ放送の原稿などが含まれています。平成24（2012）年2月には戦前期の芦田の日記が刊行されており⁸、それと

8 芦田均著 福永文夫、下河辺元春編『芦田均日記 1905-1945』全5巻 柏書房 2012

記されています。三木内閣（昭和49（1974）～51（1976）年）の成立前や退陣前後の時期のものには首相をはじめとする面会日時やメモが記載されており（前ページ 写真8）、自民党副総裁として三木内閣の命運を握った椎名の動静をうかがうことができます。

日本国憲法制定に関する談話録音速記録

（談話者：フランク・リゾー）

（1冊 平成25年7月に速記録を公開）

当館では昭和29（1954）年から32（1957）年にかけて、日本国憲法の制定に関わりの深い複数の人物の談話を録音し、その音源と「談話要旨」を昭和52（1977）年より公開してきました。現在、録音は憲政資料室で聴取できるようになっています。

またこれまでに、それらの中から佐藤達夫、岩倉則夫、金森徳次郎の各談話録音について、「速記録」を作成して公開してきました。今回、昭和29（1954）年に録音したフランク・リゾー（Frank Rizzo）の談話録音について、新たに「速記録」を作成して公開しました。

リゾーはGHQの民政局に勤務中、日本国憲法GHQ草案の「財政条項」を起草し、その後民政局長も務めた人物です。対談者は当時の国立国会図書館長であり、憲法制定議会と呼ばれた第90回帝国議会で憲法担当国務大臣として答弁に立った経歴を持つ金森徳次郎が中心となっています。リゾーに対して憲法改正スケジュールのこと、GHQ草案の作成過程や解釈などについてインタビューしています。

また、マイクロフィルム撮影により「内田康哉関係文書」を収集しました。

やすや 内田康哉関係文書

（MF：氷川町竜北歴史資料館蔵）

（22リール 平成24年3月公開）

マイクロフィルム撮影により、氷川町竜北歴史資料館（熊本県八代郡氷川町）所蔵の「内田康哉関係文書」を収集しました。

内田康哉は明治20（1887）年に外務省に入省以来、3度外務大臣を務め、辛亥革命、パリ講和会議、ワシントン会議など数々の難局に外務大臣として当たりました。

内田の外交官としての重要性にかんがみ、外務省は日記や遺稿などを集め、内田の後輩にあたる外交官青木新氏を中心に昭和13（1938）年頃から内田の伝記編纂に当たらせましたが、昭和17（1942）年1月の外務省庁舎の火災により、そのほとんどが焼失しました。残った資料等は現在、外務省外交史料館において「内田康哉伝記草稿」として公開されています⁹。

これとは別に青木新氏が保管していた伝記草稿の副本や編纂にかかわる資料は内田家に渡され、さらに内田家から氷川町竜北歴史資料館に寄贈されました¹⁰。

氷川町竜北歴史資料館、外務省外交史料館などの各機関や個人の所蔵資料から内田に関する重要資料を集成した『内田康哉関係資料集成』全3巻が昨年刊行されています¹¹。

今回のマイクロフィルム撮影は資料所蔵者である氷川町竜北歴史資料館の多大なご協力によって

実現したもので、『内田康哉関係資料集成』の編者の方々にも目録情報の提供を受けるなどご助力を賜りました。

(利用者サービス部政治史料課)

- 9 これらをもとに内田康哉伝記編纂委員会、鹿島平和研究所編『内田康哉』鹿島研究所出版会 1969 が編纂された。
- 10 伝来の経緯については高橋勝浩「内田康哉関係資料集成と内田康哉伝記編纂事業について」小林道彦、高橋勝浩、奈良岡聡智、西田敏宏、森靖夫編『内田康哉関係資料集成』第1巻 資料編1 柏書房 2012を参照。
- 11 小林道彦、高橋勝浩、奈良岡聡智、西田敏宏、森靖夫編『内田康哉関係資料集成』全3巻 柏書房 2012

憲政資料室のご案内 (東京本館 本館4階)

幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた文書類を集めた「憲政資料」、第二次世界大戦終了後の連合国による日本占領に関する米国の公文書を中心に集めた「日本占領関係資料」、主に北米・南米への日本人移民に関する資料を集めた「日系移民関係資料」を扱っています。



「憲政資料室の所蔵資料」のご案内

当館ウェブサイトの「リサーチ・ナビ」のコンテンツである「憲政資料室の所蔵資料」のページでは、新しく公開した資料も含め、憲政資料の各文書の内容の概要や旧蔵者略歴などをご覧いただけます。

URL <http://nnavi.ndl.go.jp/kensei/>



本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

うまいぞ！シカ肉

捕獲、解体、調理、販売まで

松井賢一、藤木徳彦、竹内清、長谷川直、中村勝宏 著
農山漁村文化協会 刊

2012.3 142p 21cm

<請求記号 DM456-J37>

内田百閒は「鹿鍋はそれだけで結構であり、珍しい御馳走だ」（『御馳走帖』）と述べている。彼はシカ肉と馬肉と一緒に煮込んだ「馬鹿鍋」が好物だったという。シカ肉は赤身で脂肪も少なく、クセもないので食べやすい。その上、高タンパク・低カロリー、鉄分が豊富という栄養面でも優れた食材だ。フランスではジビエ*料理の食材として広く食べられている。しかし日本では、あまり食用として使われてこなかった。

一方、シカの捕獲量は年々増加しているというが、それは農林業へ被害を及ぼす害獣として捕獲されているためだ。こうして捕らえたシカを、食材としていかに活用していくか、そのノウハウをまとめたのが本書である。

章の構成は、タイトルの通り「捕獲、解体、調理、販売」の順になっている。捕獲や解体の章ではシカ肉の解体風景が、白黒とはいえ、写真入りで綴られているため、読むのに抵抗を感じる人もいると思われるが、レシピのページは料理をする人ならば誰でも活用できるだろう。また、販売や海外の事例は、シカだけではなく、地域振興や流通に興味がある人にとっても面白いのではないだろうか。著者もフランス料理のシェフに猟師、食肉加工施設の技師等とバラエティ豊かで、章ごとの印象はまったく異なるが、どこを読んでも、著者たちのシカ肉への思いが伝わってくる。

特に、シカ肉普及の環境整備につとめる松井賢一氏による5章は興味深い。この章は本書全部に係る内容となっている。滋賀県庁でシカ肉普及に当たる松井氏は、「鹿肉コーディネーター」と名乗り、自身でシカを解体した



標題紙

り、調理しやすいように真空パックを活用する案を広報したり、マスコミ対応をしたりと、様々な活動をしている。松井氏はシカ肉コーディネーターに必須の要素として「知識面・信頼関係・話術・マスコミ対応・熱意」を挙げている。本書はシカ肉の普及についての本であるが、シカ肉に限らず何かの普及に努めている人たち、つまりコーディネーターである人にとって、この要素は普遍的なものと言えるだろう。

確かに、何に関心があるかという読み手の立場によって、どの章が読みやすいかが変わる本ではある。特定の章だけにしか興味が湧かないかもしれない。だが、本書はやはり、全体を通して読むことに価値があると思う。なぜなら、一つの食材を美味しく食べるためには、生き物である食材があり、その調達から最後の調理までの環境が整って初めて可能になるという、至極当たり前だが忘れがちなことに気付かされるからだ。（総務部人事課 ^{まつなが}松永 しのぶ）

*ジビエ：[gibier <仏>] 狩猟の獲物になる鳥獣類。またその食肉（『情報・知識imidias』）

法規の制定

【規則第5号】 国立国会図書館資料利用規則及び国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則

(平成25年9月27日制定)

絶版等資料（絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書館資料）について、国立国会図書館がデジタル化した図書館資料を用いて、図書館等への送信を行うために所要の規定を整備した。また、この規定の整備に合わせて、他の遠隔利用（入館しないで行う複写の申込みおよび図書館間貸出し）の手続を簡素化した。平成25年10月1日から施行された。ただし、送信を受ける手続および送信を受けた資料の利用に係る部分は、平成26年1月21日から施行される。

この法規による改正後の国立国会図書館資料利用規則（平成16年国立国会図書館規則第5号）および国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則（平成12年国立国会図書館規則第4号）は、国立国会図書館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp/>)>国立国会図書館について>関係法規（<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/laws.html>）に掲載している。

おもな人事

<異動>

※（ ）内は前職

平成25年10月15日付け

専門調査員 調査及び立法考査局外交防衛調査室主任

(専門調査員 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付)

等 雄一郎

専門調査員 調査及び立法考査局外交防衛調査室付

(専門調査員 調査及び立法考査局外交防衛調査室主任)

鎌田 文彦

中国国家図書館との 第32回業務交流

平成25（2013）年10月22日から27日にかけて、東京本館において標記の業務交流が行われた。今年は、中国国家図書館から、陳力副館長、梁愛民業務管理処副処長、張潔立法・政策決定サービス部副主任、張曙光立法・政策決定サービス部総合サービス課長及び韓恵外国語収集整理部東洋語図書収集整理課副課長の5名からなる代表団が来日した。

基調報告では、利用者サービス分野を中心とする両館の最近の動向や今後の展望が報告され、両館の共通する課題について意見交換が行われた。また、セッションでは、立法情報サービス及び電子書籍・電子雑誌の収集と提供に関する現状と今後の課題について、両館からの詳細な報告に続き、活発な質疑応答が行われた。



お知らせ

■ 年末年始のご利用について

○年末年始の休館（東京本館・関西館・国際子ども図書館）

次の期間、休館します。

平成25年12月27日（金）～平成26年1月6日（月）

○NDL-OPACの休止

年末年始の休館期間中にNDL-OPACのシステムメンテナンスを行うため、NDL-OPACによる資料検索、遠隔複写申込み等のサービスを休止します。

休止日時の詳細は、国立国会図書館ホームページ（<http://www.ndl.go.jp/>）に掲載します。

○来館申込みによる後日郵送複写

来館申込みによる後日郵送複写について、複写製品の年内発送をご希望の場合は、下表に示した日までにお申し込みください。ただし、分量が多い場合や複写方法によっては、発送が平成26年1月7日（火）以降になることがあります。お急ぎの場合は、下表日程に関わらず、できるだけお早めにお申し込みください。

複写の種類	東京本館	関西館	国際子ども図書館
電子式複写	12/21（土）	12/21（土）	12/20（金）
マイクロフィッシュからの引伸印画	12/21（土）	12/21（土）	12/20（金）
マイクロフィルムからの引伸印画	12/21（土）	12/21（土）	12/20（金） ※カラー複写は12/17（火）まで
フィルムからフィルムへのプリント	12/21（土）	12/19（木）	12/17（火）
フィッシュからフィッシュへのプリント	12/21（土）	12/19（木）	12/17（火）
撮影によるネガフィルムの作製	12/21（土）	12/19（木）	12/17（火）
撮影からの引伸印画	12/17（火）	12/14（土）	12/12（木）
撮影からのポジフィルム作製	12/17（火）	12/14（土）	12/12（木）



お知らせ

■ 東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「未来をつくる地域の記憶」

国立国会図書館は、東北大学災害科学国際研究所との共催により、平成26年1月に東北大学青葉山キャンパスを会場として、東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、アンドルー・ゴードン氏（ハーバード大学歴史学教授）が、「2011年東日本大震災デジタルアーカイブ」について、そしてポール・ミラー氏（カンタベリー大学人文科学創造芸術学科長）が、2010年と2011年にニュージーランドのカンタベリー地方で発生した地震に関する記録を収集する「CEISMICカンタベリー地震デジタルアーカイブ」（CEISMIC Canterbury Earthquake Digital Archive）について講演します。また、記録の利活用に関する国内事例の報告とパネルディスカッションも予定しています。さらに、主催者による震災アーカイブについての経過報告もあります。参加費は無料です。ぜひご参加ください。

○日 時 平成26年1月11日（土）13:00～17:30（受付：12:30～）

○会 場 東北大学青葉山キャンパス 工学部・工学研究科
センタースクエア 中央棟2階大講義室（定員300名）

○プログラム 【国際招待講演】 ※逐次通訳あり

「参加型デジタルアーカイブに向けた計画と展望」

アンドルー・ゴードン 氏（ハーバード大学歴史学教授、
エドウィン・O・ライシャワー日本研究所JDArchiveプロジェクトディレクター）

「なぜ大災害をアーカイブするのか？ 自然災害に関するデジタル記録の保存及び無料公開の重要性について」

ポール・ミラー 氏（カンタベリー大学人文科学創造芸術学科長、CEISMICカンタベリー地震デジタルアーカイブ事務局長）

【東日本大震災アーカイブの経過報告】

「国立国会図書館の取組」

松本 保（国立国会図書館電子情報部主任司書）

「自治体における震災アーカイブとは」

柴山 明寛 氏（東北大学災害科学国際研究所准教授）



お知らせ

【事例報告】

「中越メモリアル回廊の取組」

稲垣 文彦 氏（中越防災安全推進機構復興デザインセンター長）

「農林漁業協同組合の復興への取組記録」

岡山 信夫 氏（農林中金総合研究所代表取締役専務）

「宮城県東日本大震災アーカイブズ連絡会議の取組」

坂田 邦子 氏（東北大学大学院情報科学研究科講師）

「宮城県図書館「東日本大震災文庫」の取組」

田中 亮 氏（宮城県図書館資料奉仕部震災文庫整備チーム主事）

【パネルディスカッション】

進行

今村 文彦 氏（東北大学災害科学国際研究所教授）

パネリスト

河村 孝祐 氏（三重県防災対策部防災企画・地域支援課専門主査）

水谷 大 氏（福島県いわき市立豊間小学校校長）

上記事例報告者等

- 共 催 東北大学災害科学国際研究所
- 参 加 費 無料
- お申込方法 平成26年1月6日（月）17:00までに、下記「みちのく震録伝」
トップページ掲載のシンポジウム案内からリンクしている「参加申込みフォーム」でお申し込みください（先着順）。
「みちのく震録伝」（<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp>）
- お問い合わせ先
東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門災害アーカイブ研究分野
担当 小野、佐藤、柴山
電話 022-795-4842 電子メール archiveforum@irides.tohoku.ac.jp
※ シンポジウムの詳細については、「みちのく震録伝」ホームページをご覧ください。

お知らせ

■ 本の万華鏡（第14回） 「アフリカの日本、 日本のアフリカ」



10月29日から提供を開始したミニ電子展示「本の万華鏡」第14回では、「アフリカの日本、日本のアフリカ」というテーマで、これまであまり知られていなかったアフリカと日本との関係を取り上げます。国立国会図書館が所蔵する図書、雑誌、新聞などから、アフリカと日本の間で行き来した人や「もの」に関する資料を紹介します。

アフリカと日本と言うと、人物や文化の交流があまり盛んではなかったと思われるかもしれませんが、しかし実際には、江戸幕府がヨーロッパに派遣した侍たちがスフィンクス前で集合写真を撮影しており、明治時代には南アフリカに日本人が経営する商店が何軒もありました。またアフリカからも様々な人が来日し、「もの」が日本に入ってくるなど、活発な交流がありました。

第1章と第2章では、アフリカへ行った日本人、アフリカから日本へやってきた人々を時代の流れに沿って紹介します。第3章では、日本とアフリカとの「もの」を介した交流について紹介します。

○URL <http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/14/index.html>



写真1 スフィンクスと侍の写真
『日本人（第3次）』34号 1897
〈請求記号 雑54-36口〉



写真2 和服を着たエチオピアからの訪日使節団。日本で花嫁を募集した皇族がいた。
ヘルイ著 オレステ・ヴァカーリ英訳 エンコ・ヴァカーリ邦訳
『大日本』英文法通論発行所 昭和9 <請求記号 669-19〉



写真3 明治2年のアフリカ地図。内陸部の記述は概略にとどまる。
福沢諭吉編訳『世界国尽』巻2 阿非利加洲 慶応義塾
明治2 <請求記号 特54-102〉

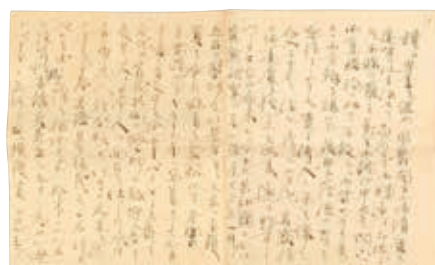


写真4 野口英世が陸軍軍医総監等を務めた石黒忠恵に宛てた書簡（大正8年4月28日付け）。野口がアフリカへ渡る前に、エクアドルで黄熱病を研究していた頃のもの。 <石黒忠恵関係文書936〉

お知らせ

■ 新刊案内

国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 753号 A4 135頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・ 大学統合および大学間連携の多様な展開
- ・ 資産課税改革の動向と展望
- ・ アメリカ及びイギリスにおける公職任命の議会による統制
- ・ 会社法制の見直しの課題
- ・ イギリス及びスウェーデンの医療制度と医療技術評価（現地調査報告）
- ・ 内閣人事局をめぐる経緯と論点（短報）



カレントアウェアネス 317号 A4 26頁 季刊 420円 発売 日本図書館協会

- ・ 本と出合える空間を目ざして一恵文社一乗寺店の棚づくりー
- ・ 岡山大学における博士学位論文のインターネット公開義務化について
- ・ EIFL：その組織と活動
- ・ 「博士論文のエンバーゴを最大6年間に」：米国歴史学協会の声明とその反響

<動向レビュー>

- ・ 2050年の情報専門職とその養成
- ・ 社史の世界

<研究文献レビュー>

- ・ 学びを誘発するラーニング・コモンズ

お知らせ



平成24年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「イギリス児童文学の原点と展開：家庭小説・冒険小説・創作童話・学校物語」

A4 126頁 1,785円 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-753-5)

- ・はじめに：イギリス児童文学の始まりとジャンルの分化
- ・シャーロット・ヤング『ひなぎくの首飾り』（1856）から始まる系譜
- ・食から見る「ロビンソン変形譚」の系譜
- ・創作フェアリーテイルの起源と現在
- ・学校物語の伝統からみる「ハリー・ポッター」シリーズ
- ・参考資料紹介—黄金期のイギリス挿絵画家から日本の童画作家へ

入手のお問い合わせ

日本図書館協会 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

訂正

本誌631（2013年10月）号「電子展示会『ヴィクトリア朝の子どもの本 イングラムコレクションより』」5ページに誤りがありました。

上から2行目

（誤）の監修のもと、……

（正）にご助言いただき、……

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Sōma Daisaku Shirasawa ikken shorui: real truth about an attempted attack on the
 Head of Tsugaru Domain
- 04 Travel writing on world libraries: Boston
- 13 Materials newly available in the Modern Japanese Political History
 Materials Room
- 12 <Tidbits of information on NDL>
 At the Photoduplication Counter
- 24 <Books not commercially available>
 ○ *Umaizo shikaniku : Hokaku kaitai chōri hanbai
 made*
- 25 <NDL News>
 ○ Rules & regulations
 ○ Changes in personnel
 ○ 32th mutual visit program with the National
 Library of China
- 27 <Announcements>
 ○ Library services at the year-end and New Year
 ○ International Symposium on the Great East
 Japan Earthquake Archive "Community
 memories for the global future"
 ○ Kaleidoscope of Books (14) "Japan in Africa,
 Africa in Japan - Exchanges of Culture and
 People"
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 25 年 11 月号 (No.632)

平成 25 年 11 月 20 日発行 定価 525 円
(本体 500 円)

発行所 国立国会図書館
 編集者 田 中 久 徳
 責任者
 〒 100-8924 東京都千代田区永田町 1-10-1
 電 話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

発 売 社団法人日本図書館協会
 〒 104-0033 東京都中央区新川 1-11-14
 電 話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社 正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
 本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
 本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『鶯邨畫譜』から 部分
酒井抱一 筆 [江戸] 須原屋佐助 [18--]
1冊 26cm
<請求記号 か-44>

国立国会図書館月報

平成25年11月20日発行 (毎月1回20日発行)
(11月号通巻632号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525円 (本体 500円)